

やすぎ就農Book

2023



集落



師匠



住まい



農地



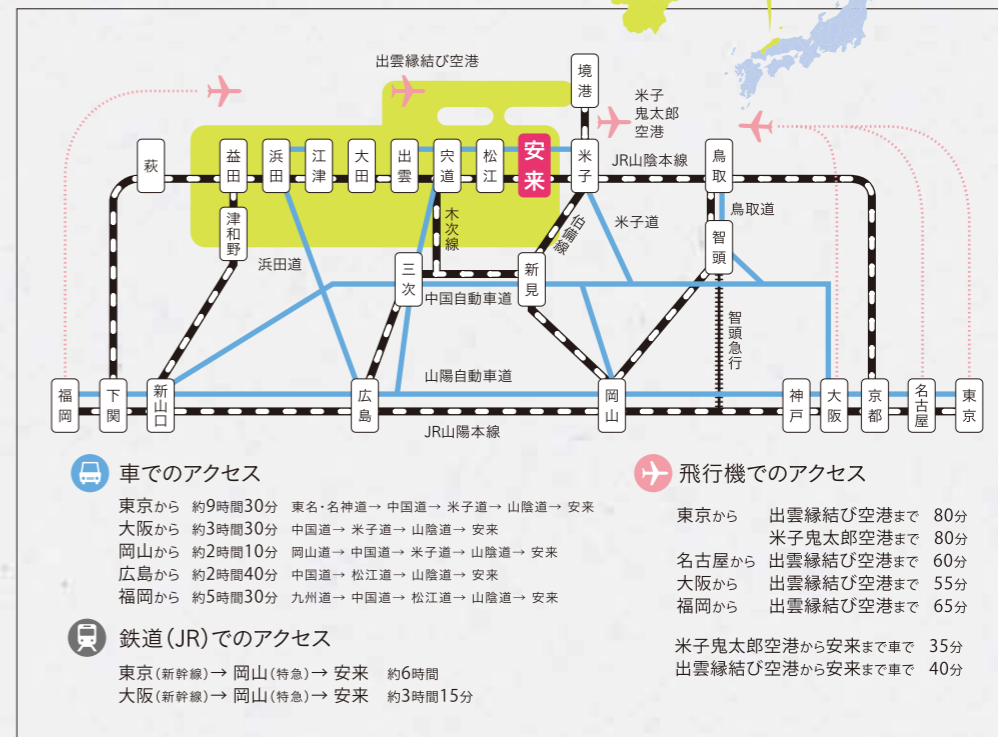
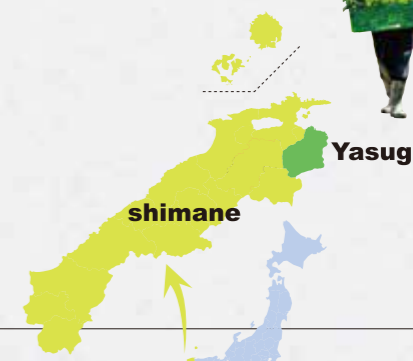
ハウス整備

安来就農 スタートパック

師匠 農地 設備 住まい 集落

全て揃えてバックアップします!!

島根県安来市



就農に関するお問い合わせは

安来地域担い手育成総合支援協議会 Tel.0854-23-3330
 (安来市農林水産部 農林振興課)

〒692-0207 島根県安来市伯太町東母里580 fax.0854-23-3382
 e-mail: shinkou@city.yasugi.shimane.jp

<http://www.city.yasugi.shimane.jp/busyo/sangyou/nourin/kensyu/>

島根県 東部農林水産振興センター 安来農業部
 〒692-0025 島根県安来市穂日島町303
 Tel.0854-22-2341 fax.0854-22-4352
 e-mail: noshin-yasugi@pref.shimane.lg.jp

島根県農業協同組合 やすぎ地区本部 担い手支援センター
 〒692-0025 島根県安来市穂日島町303
 Tel.0854-23-0255 fax.0854-23-0255
 e-mail: ninaite.yas@ja-shimane.gr.jp

安来市農業委員会
 〒692-0207 島根県安来市伯太町東母里580
 Tel.0854-23-3360 fax.0854-23-3383
 e-mail: nougyou@city.yasugi.shimane.jp

発行/安来地域担い手育成総合支援協議会(安来市農林水産部 農林振興課)
 2023年3月発行 *無断転載、コピーはご遠慮ください。

安来就農 スタートパック

師匠 農地 設備 住まい 集落

単身者も
子育て世帯も
安心！

安来市では、「受入集落」、農業の指導者となる「師匠」、就農時の「農地」「機械・施設整備」の支援に加えて、定住へと至る将来を考え「住居」の確保までをパッケージ化。新規就農者を受け入れる取り組みを進めています。



師弟制度で マンツーマン の実技指導

島根県知事認定の指導農業士のもとでの研修を行います。強い師弟関係を築いて、就農後もサポートします。



師匠



集落

集落 全体で受け入れ

集落内の話し合いにより策定された集落ビジョンにより、Uターン新規就農者の受け入れ体制づくりを進めています。



集落みんなまで
サポートします！

ぜんぶパックで
揃えます！！

移住見込みの方や就業準備中にお試し住宅

安来市への移住を検討する方が一時的に居住し、安来の気候、風土、生活を体感してもらうための施設です。安来市への移住が確実と見込まれる方が、市内に転居したり、就業準備のために一時的な仮住居としても利用可能です。



住まい



農地

農地の確保

新規就農者の希望に添いながら、関係機関で連携し、相談可能です。



ハウス整備

ハウス整備支援で 初期投資を軽減

いちご、有機葉物野菜などハウス栽培の作物の場合、県の補助事業を活用し、就農時の初期投資が軽減できます。

〈施工例〉



葉物ハウス

いちごハウス

空き家バンク

居住しなくなった空き家を所有者が市に登録し、その物件を買い手・住みたい人へ紹介する仕組みです。Uターンや田舎暮らしを希望される方、市民の方へ市内の空き家（賃貸・売却が可能な物件）を紹介します。



安来市定住支援サイト: やすぐらし「住まい・空き家」サイトはこちら ↑



島根県の東端、鳥取県との県境に位置する安来市。南には中国山地に連なる山々が横たわり、そこを源流とする飯梨川と伯太川の2本の川の間に広大な能義平野が広がっています。肥沃な大地は県内有数の農業地帯として恵みをもたらす。水稲、いちご、ぶどう、梨、花き、葉物野菜などの産地として多くの安来ブランドを生み出しています。農業研修の受け入れにも積極的なことも安来の風土。農業に夢をもち、共に挑み続ける新しい風を歓迎します。

安来で就農しよう



やすぎ就農 Step



●角さん プロフィール

米子市出身。Uターン後、安来在住の叔母から求人情報を得ていちご農家でアルバイト。師匠研修修了後は2023年6月からの担い手支援センター研修を経て、2024年9月就農予定。

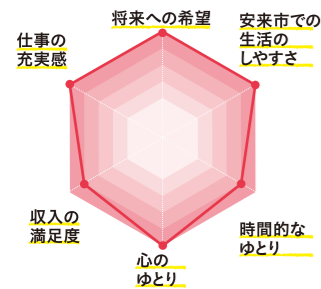
●高見いちご縁 高見謙一さん プロフィール

JAのやさしいちご部会の部会長。「栽培は基本を大切に、消費者に渡るまでの後工程も大事に」が信条。元いちご農家の両親と妻子の家族ぐるみで、あきひめ、紅ほっぺ他を高設2棟、土耕6棟で栽培している。

角さんの研修中の1日

- 7:30 収穫研修
- 10:00 調整作業
- 11:30 お昼休み
- 13:30 調整作業
- 15:00 ハウス内管理
- 16:30 出荷

研修中の満足度指数



就農歴 8年

研修歴 1年

指導農業士
高見謙一さん(55)

いちご研修生
角慶斗さん(23)

Q.農業のやりがいと、大変なところは？

A. 生産者という視点から「食」に関わることに一番のやりがいを感じています。

Q.現在の課題と、今後の目標は？

A. 就農までの時間は決まっているので、その時間を無駄なく効果的に使いたいです。体調を崩すことがあるので、体調管理には一層の注意を払っていこうと思います。

●遠藤暢彦さん プロフィール

広島市出身。妻と娘2人。設計の前職から就農を目指し、2019年安来市に1ターン。2021年9月に独立就農。就農パッケージのお陰で地域にもスムーズに溶け込む。

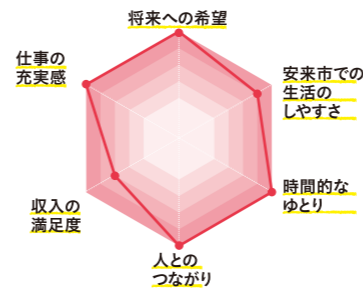
●福井農場 生和陽治さん プロフィール

長年いちご栽培に携わり、5棟のうち2棟で高設養液栽培を行う。美味しく安全ないちご生産の維持と拡大のため、後継者の育成にも力を入れている。

遠藤さんの研修中の1日

- 7:00 収穫研修
- 9:00 バック詰め研修
- 12:00 お昼休み
- 13:00 バック詰め研修
- 15:00 ハウス管理研修
- 17:30 出荷研修
- 18:00 帰宅

研修中の満足度指数



Q.農業のやりがいと、大変なところは？

A. やりがいは、美味しいと喜んでもらえるものを自分の手で作れるところ。大変なところは、天候に大きく左右されることと体調管理！

Q.現在の課題と、今後の目標は？

A. いちご栽培の見えにくい変化をとらえて続けていけるかが課題。目標は一人でも多くの方に安来のいちごを知ってもらい、食べてもらえる機会を創出すること。

いちご栽培歴 46年

就農歴 1年

生和陽治さん(77)

認定新規就農者
元いちご研修生
遠藤暢彦さん(45)

就農パッケージ制度で
いちご農家の夢に邁進中

子どもの頃からものづくりが好きで、大学卒業後、建物の設計という形で夢を叶えた遠藤さん。40歳を前にしてもう一度自分に問いかけたとき、「自分の手の中から生まれるものづくりに向き合いたい」という素直な気持ちが就農へと向かわせた。

各地の新規就農者支援を探そうと、安来独自の就農パッケージ制度や先輩1ターンの存在、安来のいちごの美味しさが決め手となり、令和元年安来市に1ターン。
1年間の師匠研修では、師匠の生和さんから安心安全ないちご栽培の基本を間近で教わり、研修中は、指導を受けた事柄を確認しながら実践研修の最終段階に入っている。

「自分の理想とする栽培と、天候や病害虫などの現実を見ながら、独り立ちしたあとの方針をより具体的に考えられるようになりました」
2021年9月にはハウス2棟での独立就農がスタート。就農を後押ししてくれた妻や娘たちは心強い支えであり、安来の人たちの優しい人柄とサポートする熱意が遠藤さんを牽引している。

「多くの方に食べて喜んでもらえる機会をつくり、ふるさと広島と安来を結ぶようなお手伝いができればというのが今の目標です」

若者の夢をふくらませ
笑顔にする安来のいちご

大 学進学で故郷米子市から離れた角慶斗さん。就活時期に農家で働きたいと考えるようになったのは、人生における「食べる」ことの重要性を思ったからだ。Uターン後、いちご農家のカフェでアルバイトがスタートすると、毎日いちごを身近かに見ているうち、生産者もお客さまも笑顔にするいちごの魅力にはまっていた。カフェのオーナー自身が安来の新規就農制度の利用者だったことから情報を得ると、一気に就農への道筋が見えた。

2022年6月、高見さんのもので1年間の師匠研修が始まった。農業のイロハも知らなかったが、収穫後の株の刈り取りに始まり、育苗と水やり、追肥、防除、定植、収穫など、確実に技術を身につけている。農業の世界に飛び込むまでは年配の人がやるイメージだったが、今は「自分と同じ若い人たちに農業のやりがいを伝えられたら」と意欲的だ。将来は、身体への負担も少なく、定年後の両親とも一緒にできる高設いちご栽培をやりたいと考えている。



行政・JA生産部会も
ブランド化でバックアップ！

安来のいちごは約40年前から栽培がはじまり、生育に不利な冬の寒冷な気候条件の中で、県内最大の産地となった。完熟してから出荷するため、近隣でしか流通していないのもこだわりのひとつ。縁結びいちご「莓一縁」プロジェクトを立ち上げ、スイーツなどの商品開発やキャンペーン展開など、女性自線のPR活動を推進しブランド力を高めている。



就農歴
5年

認定農業者／元研修生
田村耕太郎さん(44)
雅子さん(44)ご夫妻

就農歴
19年

指導農業者
岸川勉さん(54)

2年の研修を経て2017年7月に独立就農した田村さん夫妻は東京からの1ターン。父方のルーツが安来にある耕太郎さんは、30代半ばの頃、島根との縁を消したくないと移住を考えた。「土地に根ざした仕事がいい」と調べる中で、充実した新規就農制度がある安来で就農を決意。Web系のエンジニアだった夫の決断に、妻の雅子さんも抵抗はなかったという。

耕太郎さんは以前、他の野菜と差別化して売られていた有機野菜が好きではなかったというが、研修した岸川さんの農園でその思いは吹き飛んでしまった。「安全で美味しい野菜を作るため人の手が加わりすぎないシンプルで農業で、地域を底支える重要な産業だとわかり、僕の肌に合いました」程よい距離感で見守ってくれる安来の人たちの温かさや、研修仲間の励ましにも支えられ、二人は赤江・オーガニックファームのメンバーとして日々有機野菜と向き合っている。

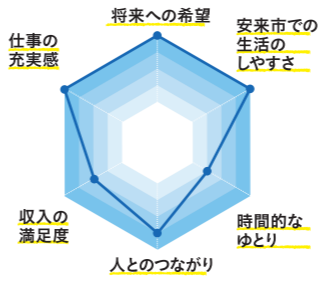
UIターン者中心に結成した「赤江・オーガニックファーム」

安全でおいしい野菜を消費者に提供したいと集まった、安来市赤江地域のUIターン者で平成27年に結成。有機JAS認証を取得し、ハウス栽培で1年を通して、安定して葉物野菜を生産している。平均年齢40代の若手たちが、さまざまな社会経験を経営に生かし、生産力と販売力を拡大しようとハウスを団地化。同じ志をもつ新規就農者を募集。

田村さんご夫妻の1日

- 6:00 起床
- 7:00 収穫
- 9:00 調整、出荷準備
- 13:00 昼休憩
- 14:00 畑作業
- 16:00 出荷
- 18:00 帰宅

就農後の満足度指数



- Q.独立就農にあたり、良かったサポートは？**
- A. 各種助成金や、JA、市の方々のサポートには本当に助けられましたし、研修生同士の交流では、互いに頑張ろうと励まし合えました。
- Q.現在の課題と、今後の目標は？**
- A. 5年間の新規就農者の期限は今年までなので、その後の経営をしっかり安定させ、次の世代に渡せる圃場に成長させることが目標です。

安来市特定地域づくり事業協同組合

地域づくりパートナーから雇用就農、独立就農の未来へ

安来市特定地域づくり事業協同組合(以下、組合)の組合員(事業者)のほとんどが農業事業者ですと事務局長の石原和幸さん。組合で雇用する派遣労働者は、地域づくりパートナー(以下、パートナー)と呼ばれ、数年後には事業者の正規社員として雇用または、独立就農に向け、育成しているところだ。

パートナーにとっては安定的な収入確保と、さまざまな事業に従事できる利点があります。これまでも1年で組合を卒業して正規雇用につなげたり、独立就農への足がかりとしている



安来市特定地域づくり事業協同組合 事務局長 石原和幸さん

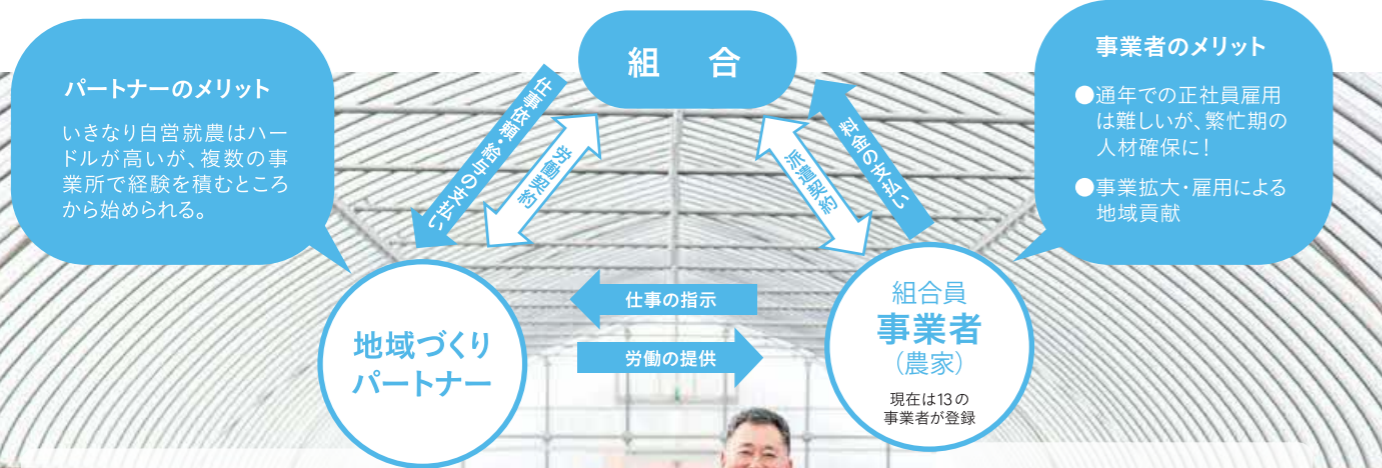
人など、市内外から人材を受け入れていきます。「移住相談や雇用就農、独立就農相談など、組合への相談はさまざま」と石原さん。安来市移住や農業を始めたい、農業に携わりたい人の窓口の一つとなっています。

安来市特定地域づくり事業協同組合

当組合は、地域コミュニティや産業の担い手不足に対し、仕事を組み合わせマルチワークを形成。「組合員」である事業者に対し労働派遣を行います。派遣労働者を地域の担い手＝「地域づくりパートナー」として受け入れ、育成することを目的としています。「地域づくりパートナー」はさまざまな事業に従事し、スキルアップを目指すことができ、「組合員(事業者)」には、次世代の人材育成、将来雇用につなげることが出来ます。地域には、「地域づくりパートナー」が地域活動に参加することによりコミュニティ維持につながります。現在「組合員」13社、「地域づくりパートナー」3名が活躍中。「地域づくりパートナー」「組合員」「地域」三方よしとなるように取り組んでいます。

安来市特定地域づくり事業協同組合

島根県安来市安来町878番地2
TEL.0854-21-9005
<https://www.yasugi-multi-work.com/>



複数の農家で実践でき就農の将来像が描ける！

島根県立農林大学校の先生に組合を紹介してもらい、複数の農家で実践しながら就農の将来像が描けると思いました。派遣先の方々に学ぶことで、今はより具体的な自分らしい就農を模索中です。

地域づくりパートナー
吉村宗馬さん(22) 益田市出身
令和4年4月から地域づくりパートナー



人手が足りない時期に若い力が頼りになる！

就農した2年半後に合同会社になり、それと同時に組合員になりました。常時雇用はまだ難しく、アルバイトは年配の方が多い状態なので、やる気のある若い人の仕事ぶりとても助かっています。

組合員(農家) 齋藤剛宏さん(48)
神奈川県から家族で1ターン。2019年に就農。

Step
4

就農 認定新規就農者

やすぎ農業サポートセンター
担い手支援センター内
島根県安来市穂日島303(中海干拓内)
TEL.0854-26-4425 http://yasugi-nsc.jp/

平成 27 年 4 月に開設された無料職業紹介所で、平成 28 年度からは事務局に地域おこし協力隊の制度を活用。運営は安来地域担い手育成総合支援協議会（安来市、JA しまねやすぎ地区本部、島根県東部農林水産振興センター安来農業部、安来市農業委員会）です。農家の高齢化やパート不足による労力不足を解消するため、農家とサポーターのマッチングのほか、サポーターの募集や研修、制度を広く知ってもらうためのチラシ配布やホームページの運営を行っています。



やすぎ農業サポートセンター
事務局 竹部沢香さん

「サポーター登録は現在若手から年配の方まで約180人。市内だけでなく松江市や米子市の方もいます」と事務局の竹部沢香さん。基本的に軽作業なので、未経験者でも教わりながら仕事ができ、各専門機関が連携してセンターで実施する基礎研修や実践研修で、知識と技術の向上もできると思います。

農家は、いちごなら収穫の時期だけ、露地野菜なら年間を通して人手がほしいなど、求人期間も作業内容もさまざま。農家とサポーター双方の希望に合うようマッチングした後は、両者間で交わす雇用契約について適正に行われるようアドバイスも行っています。また、農業をやってみたいと考えている方が、まずはサポーターから経験を積むこともできます。

農家で働いてみたい人と 働き手がほしい農家をつなぐ

求

人は、自力で働き手を見つけにくい新規就農者や、農繁期のみに人手を必要とするなどの安来市内の農家。求職者は、短期・長期で農作業のお手伝いがしたいと思う方で、やすぎ農業サポートセンターに登録した農業サポーターです。

「サポーター登録は現在若手から年配の方まで約180人。市内だけでなく松江市や米子市の方もいます」と事務局の竹部沢香さん。基本的に軽作業なので、未経験者でも教わりながら仕事ができ、各専門機関が連携してセンターで実施する基礎研修や実践研修で、知識と技術の向上もできると思います。

農家は、いちごなら収穫の時期だけ、露地野菜なら年間を通して人手がほしいなど、求人期間も作業内容もさまざま。農家とサポーター双方の希望に合うようマッチングした後は、両者間で交わす雇用契約について適正に行われるようアドバイスも行っています。また、農業をやってみたいと考えている方が、まずはサポーターから経験を積むこともできます。

サポーター養成基礎研修
●座学での基礎知識
●実践での養成研修
・いちご(定植・収穫・バック詰め)
・ぶどう(花穂整形・摘粒)
・トルコキキョウ(定植・調整) ほか

やすぎ農業 サポートセンター



農業に興味がある!
空いた時間で働きたい!

求職者(働き手)
農業サポーター



サポーターさんコメント

子どもが幼いころ、「空き時間を利用」していちご農家のお手伝いをしていましたが、通年で仕事がしたいとサポーター登録しました。自分が希望する曜日や時間帯に無理なく働けますし、研修では勉強する楽しさも味わえます。いちごをメインにサツマイモやカボチャなどいろいろなお手伝いをしながら、今では農業サポーターは「やりがい」です。

農業サポーター
及川 聡美さん(48)
平成 30 年 1 月サポーター登録

農家さんコメント

当初は横のつながりも少なかったのですが、農業サポーター制度は助かりました。収穫調整や袋詰めなど周年で働いてくださる方が希望で、現在は 6 人の方を雇用、毎日 3 人程度来てもらっています。「赤江・オーガニックファーム」の一員として、安全で美味しい有機野菜をより多くの方に提供できるよう、さらに頑張りたいと思います。

農家
戸塚 章一さん(52)
東京から1ターン、
認定新規就農者(令和元年8月から5年間)

Step
3

実践研修 自営就農研修

島根県農業協同組合 やすぎ地区本部
担い手支援センター
島根県安来市穂日島303(中海干拓内)
TEL.0854-23-0255

島根県より農地・施設を借り受け、平成 24 年 4 月から安来市の農業研修事業施設としてスタート。圃場面積約 5 ヘクタールには研修用のパイプハウス6棟と露地圃場を整備し、自営就農するまでの実践的な研修ができます。現在は、いちご(土耕、高設)、有機葉物野菜(ほうれん草、小松菜、水菜)、露地野菜(白ネギ、ニンジン)の各品目に応じた取り組みが可能で、国や県の「準備型」の助成を受けることができます。

自営就農するまでの期間 最終的な実践研修ができる

担

担い手支援センターは、師匠研修(2 テップ)を終えた人が、自営就農までの期間に研修用のハウスや農地を借りて自分のやり方を実践できる施設です。要望に応じて農薬や肥料の手配などもしてくれ、技術的なことは同じ敷地内にある県の農業普及員に聞くこともできます。

「研修生の方には、ここで少しでも自信をつけていただくと同時に、就農5年後に280万円以上の農業所得を得られるような計画を立てていただきます」と支援センターの中川治さん。そのために行政機関や各種団体等と連携をとりながら、初期投資費用についての具体的な相談や就農後に必要となる農業簿記の研修など、研修者のニーズに対してさまざまな支援を行っています。

「新規就農する方の思いはそれぞれですから、その方が目指す農家経営に向けてベストな形になるような支援ができれば」と中川さんが言うように、担い手支援センターは研修者が農家経営に踏み出す一歩手前の力強い味方です。



担い手支援センター
中川 治さん

研修施設概要



いちご(土耕、高設)



有機葉物野菜(ほうれん草、小松菜、水菜)



露地野菜(白ネギ、にんじん)

研修生コメント

育苗ハウス1棟、栽培ハウス2棟を借りて育苗、定植、栽培管理、収穫、出荷までイチゴ農家としての一連の作業を実践的に学んでいます。担い手支援センターのスタッフの皆さんには、栽培に関するアドバイスをいただいたり、農機具の使い方を教わったりしてサポートしていただき大変助かっています。

研修生 小崎一貴さん(44) 福岡県から1ターン
美月さん(29) 広島県から1ターン
夫婦で令和5年9月から就農予定



安来市は新規就農者を応援します。

安来市は、島根県内でもとくに充実した研修メニューで農業経営者の育成に力を入れています。新規就農に必要な農業技術や経営管理を習得できます。自営就農（専業）だけでなく、半農半X（兼業）、雇用就農の選択肢もあります。生活費支援や傷害保険加入で、研修中の生活をサポート。指導農業士や先に就農した先輩たちのアドバイスを受けながら、農業人への一歩を踏み出してみませんか。

Step 1 就農相談

農業で生きる決意を固める前に、まず相談。担い手協議会では農業に関する情報提供やアドバイスを行っています。また、各地の就農相談会や農業体験ツアーへの参加もお待ちしております。



いちごの収穫研修

農家ミニ体験

本格的な研修を受ける前に、自分が本当に農業ができるかどうか、安来で暮らせるかどうか、実際に安来に来て、農業ミニ体験をしてみよう。

体験期間 / 1日～3日

Step 2 師匠研修

安来市新規就農研修

◎ 師弟制度でマンツーマンの実技指導

島根県知事認定の指導農業士の下で、新規就農に必要な農業技術や経営管理を習得するための研修を実施し、就農後も相談役としてサポートします。

- 対象者 / 研修期間終了後、安来に定住し、新規就農が可能な方で農業に積極的に取り組む意欲のある方
- 研修期間 / 1年以内
- 研修先 / 指導農業士農場（農業研修）、関係機関（農業）

働き方の選択・決断！

就農の決心

審査

- やる気
- 計画性
- 自己資金
- 労働力

あなたが農業に向いているか、支援すべき人材かなど、総合的に審査します。

研修中の住まい

- 滞在施設（宿泊施設）を利用できます
ワンルーム（52㎡・ロフト付・セパレート）
使用料 2万円 / 月（光熱費は実費負担）
無料駐車場完備
- 傷害保険に加入（掛金は安来市負担）

- 助成内容
- 産業体験事業（ふるさと島根定住財団）
UIターン者
12万円 / 月（3ヶ月ごとに36万円支給）



Step 3 実践研修

自営就農研修

研修用のハウスを借りて栽培の計画から実際の栽培、収穫、販売までの一連の作業を実践的に研修できます。

- 専門的な栽培や経営技術、知識の習得を目指し、農家や研修施設での研修（農家、JA 担い手支援センターなど）
- 農業士への弟子入り・経営研修・販売対策ほか

助成内容

● 新規就農者育成総合対策（就農準備資金）

就農時50歳未満
最大150万円 / 年（最長2年）
世帯所得 600万円未満対象

● 農業人材投資事業（県単・準備型）

就農時50歳以上65歳未満
（UIターン）最大144万円 / 年（1年）
（県内在住）最大72万円 / 年（1年）
世帯所得 600万円未満対象

専業農家

半農半X

雇用就農

雇用就農

- 雇用就農先を探し、就職活動を行う
- 雇用農業者として就農
- 雇用就農先でOJT研修



安来市は、行政、JAなどの関係機関が連携して農業をしたいあなたをバックアップします！

Step 4 就農

就農計画を作成し、認定新規就農者になる

- 農業所得目標：概ね280万円以上（就農5年後）
- 適切な資金運用計画を立てる
- 年間農業従事日数が150日

- 営農サポート / 農業普及員による技術指導・経営指導、その他情報提供
- 施設整備 / 県の新規就農者を対象とした補助事業（補助率：1/3）
- 自己課題解決研修事業 / 営農課題解決のための先進地研修等に助成
- 青年等就農資金等 / 経営開始時の施設整備や経営費等のための制度資金（無利子・上限3,700万円、償還期間：17年以内（5年据置））

助成内容

● 新規就農者育成総合対策

- ① 経営発展支援事業 就農時50歳未満 補助事業費上限1,000万円（補助率3/4）
- ② 経営開始資金 就農時50歳未満 12.5万円 / 月（150万円 / 年）最長3年間
※世帯所得600万円未満対象
- ①、②併用の場合、①の補助事業費上限500万円

● 農業人材投資事業（県単・経営開始型）

就農時50歳以上65歳未満 最大72万円 / 年（2年）
※国際水準GAP（美味しまねゴールド等）を事業開始後1年以内に取得

Step 4 兼業農家になる

- 営農サポート / 農業普及員による技術指導・経営指導、その他情報提供
- 施設整備 / 半農半X開始支援事業（補助率1/3）
補助事業費上限300万円

助成内容

● 定住定着助成 6万円 / 月（12ヶ月以内）

- 農業所得目標
平坦部 農業部門80万円、X部門120万円
中山間地 農業部門50万円、X部門100万円
※国際水準GAP（美味しまねゴールド等）を事業開始後1年以内に取得

Step 3 半農半X研修

- 専門的な栽培や経営技術、知識の習得を目指し、農家や研修施設での研修（農家、JA 担い手支援センターなど）
- 農業士への弟子入り・経営研修・販売対策ほか

助成内容

- 就農前研修経費助成
就農時65歳未満
12万円 / 月（12ヶ月以内）
要件 / 県内5年以上居住

独立就農

安来市特定地域づくり
事業協同組合

地域づくり パートナー

- マルチワークで経験を積む
- 派遣先でOJT研修

詳しくはP7へ

雇用就農